様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｈ０３２０３

研究課題名（和文）チベット牧畜民の生活知の研究とそれに基づく牧畜マルチメディア辞典の編纂

研究課題名（英文）Compilation of an ethnographic dictionary of Tibetan nomadic vocabulary based on the study of Tibetan nomads' wisdom of living

研究代表者
星　泉（Izumi, Hoshi）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：８０２９２９９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では中国青海省に暮らすチベット牧畜民を対象に現地調査を実施し、放牧、家畜管理、乳・肉・糞の加工、衣食住、民間信仰などの様々な分野に関する聞き取り調査を行った。成果は共同編集データベースを用いて『チベット牧畜文化辞典』（パイロット版）にまとめ、PDF版、オンライン版、iOSアプリ版という3つの形態で発表した。項目数は3,500にのぼり、チベット語表記、音声データと音韻表記、日・英・中の3言語による解説を掲載し、ふんだんな写真や図版で解説を補完した。辞典とは別に『チベット牧畜民の一日』という映像作品も完成させ、マルチメディアによるチベット牧畜文化の記録を達成することができた。

研究成果の概要（英文）：In this project, we carried out fieldwork on the language and culture of Tibetan pastoralists living in Qinghai, China. We collected data on their cultural knowledge of their pastoral life, including pasturage, livestock management, milk and meat processing, food, clothing, housing, and folk religion. We constructed a co-authoring database for compiling a dictionary based on the records accumulated during our fieldwork, and we succeeded in compiling the Dictionary of Tibetan Pastoralism (pilot version), which includes 3,500 lemmas with Japanese-English-Chinese translation and speech sounds by a native speaker with phonetic notations. A large number of photos, illustrations, and notes were also added to supplement the explanations. The dictionary is published in PDF, web, and iOS versions (see http://nomadic.aa-ken.jp). We also made a documentary film titled A Day in the Life of Tibetan Pastoralists as an additional multimedia record of the culture of Tibetan pastoralists.

研究分野：言語学

キーワード：チベット　牧畜　辞典編纂　チベット語　生活知

１．研究開始当初の背景

中国では 2000 年代より三大河川（黄河、長江、メコン川）の水源区の環境保全を目的とした「三江源生態移民政策」が実施されてきた。これにより、20 万人を超える数のチベット牧畜民が都市部近郊の集中居住区への移住を余儀なくされた。結果的に牧畜民は草原と切り離され、彼らが草原での家畜放牧を通じて長い年月をかけて身体の内側に育んできた環境を読み込む力とそれに基づく文化的基盤を失いつつある。

この状況下でチベットの牧畜文化を支えてきた牧畜語彙は衰退し、若者に継承されなくなっている。現地では危機意識が高まっており、伝統的知識とチベット語の継承を目的とした草の根の民間団体が活動を行っている。

チベット研究を長く進めてきた代表者と分担者らは、チベット文化における牧畜文化の重要性とその記述の緊急性に鑑み、牧畜語彙の網羅的な調査・研究に着手することとした。

２．研究の目的

(1)　チベットの牧畜民が家畜放牧を通じて生活の中で育んできた生活知を明らかにする。

(2)　得られたデータを研究のために活用するだけでなく、チベットの牧畜民が将来的に活用できるような辞典を実験的に作る。

３．研究の方法

(1)　チベットの牧畜民が家畜放牧を通じて生活の中で育んできた生活知を明らかにするために、主に 4 つの観点について独自の調査票を作成し、それに基づき現地調査を実施するという手法をとる。4 つの観点とは、①放牧と家畜管理、②乳加工と畜産物生産、③衣食住に関する生活知、④家畜に関わる宗教文化である。

現地調査は研究協力者のナムタルジャのコーディネートにより、中国青海省黄南チベット族自治州ツェコ県で実施することとした。この地域は三江源生態移民政策の対象地域でありながら、いまだ牧畜が一部地域で行われていることから調査地として選定した。

図１　青海省の東端に位置する調査地

実際の調査は、言語学、人類学、牧野生態学、宗教学、歴史学などを専門とする学際的な研究チームで進め、専門的な知見を現地調査の段階で活用できるよう努めた。

(2)　牧畜民が将来的に活用できる辞典とするため、そして成果を様々な専門分野の研究にも活用できるようにするために、複数種類の辞典デザインを開発する。

それを可能にするために、共同編集可能なデータベースを構築し、そこにすべての調査データを集積する仕組みを開発する。

４．研究成果

(1)『チベット牧畜文化辞典』(パイロット版)

2015 年の 8 月、2016 年の 2 月、8 月、2017 年の 8 月に 4 回の現地調査を実施し、上述の 4 つの観点に基づく生活知の調査を実施し、そこで得られた情報を後述の共同編集データベースに集積し、最終的に日本語・英語・中国語による語釈、および音声、写真、図版の照合などの作業を行い、約 3,500 項目の辞典としてまとめあげた。全ての項目は 28 のカテゴリーに分類し、さらにすべての項目に対し、全体で 400 にのぼるタグを付与し、シソーラス的な機能をもたせている。成果である辞典は、PDF による冊子版、オンライン版、iOS アプリ版という 3 つの形態で公開した。アプリを作成したのは、現地でスマートフォンが爆発的に普及しているためである。英語訳と中国語訳については、それぞれ約 2,000 項目分、約 800 項目分と、まだ部分的ではあるが、4 言語対照で公開することができた。ウェブサイトの説明は日・英・チベット語対照とした。

図２　チベット牧畜文化辞典のトップページ

図３　PDF 版の紙面と iOS 版の画面（右端）

(2)　牧畜民の生活知に関する調査研究

上述の 4 つの観点に基づく現地調査により、

明らかになったことは、様々な形で論考にまとめた。

① 放牧と家畜管理

放牧地の地形・天候に関する語彙については、研究協力者のナムタルジャと山口が調査を担当し、その成果をまとめた〔論文⑫〕。

また、家畜管理において重要な役割を果たす家畜の認識語彙については分担者の海老原がヤクを中心に調査を担当し、毛色、大きさ、年齢、性別、性格の特徴などによって名称を表し分けている様を明らかにし、論考にまとめ〔論文④〕、国際学会でも発表した〔発表②⑧〕。

なお、地形・天候に関する語彙は 331 項目、家畜管理の語彙は 477 項目を収集し、辞典に収録した。

② 乳加工と畜産物生産

乳加工については分担者の平田が中心となって調査を行った。ユーラシアの他の地域と比較することで、青海チベット牧畜民の乳加工の特徴を明らかにした〔論文⑭⑲〕。また、平田はこの成果を国際チベット学会など、様々な学会で発表した〔発表③〕。搾乳方法については映像作品『チベット牧畜民の一日』に詳細に記録した〔その他②〕。

畜産物生産については、屠畜・解体の方法について、研究協力者の小川が中心となって調査を行った。青海チベット牧畜民の屠畜・解体においては、屠畜の手法が欧米やイスラーム世界などで行われている喉を割く方式と異なり、窒息法をとっていること、肉の解体の仕方と切り分けた肉の名称についても文化的特徴が見られることなどを明らかにした〔論文①〕。

また、家畜の糞の利用法についてはナムタルジャが調査し、季節ごとに糞の特徴とその活用方法の違いや、名称などについて論考を著した。さらに、燃料糞加工のプロセスについては星が調査し、各種の加工方法の詳細とその名称についてまとめた〔論文⑮〕。燃料糞の加工の様子については映像作品に詳細に記録した〔その他②〕。

なお、乳加工については 159 項目、屠畜・解体については 135 項目、これに関連して食肉と部位名称については 268 項目、糞に関しては 68 項目を収集し、辞典に収録した。

③ 衣食住に関する生活知

服飾文化については、分担者の別所が、仔羊の毛皮を用いた民族衣装について調査を行い、作り方、素材の変化、装飾品の変化などを調査した〔論文⑩〕〔発表⑤〕。

食文化に関しては、ミルク、バター、チーズ、ヨーグルトなどを用いた料理についての調査を平田が、肉料理については小川が調査を実施した。ミルクを使った料理、肉料理などについても映像で記録を残した。

住文化に関しては、テントとかまどに関する調査を行った。海老原はテントの種類とその名称についてまとめ〔論文⑱〕、星はかまどの種類やかまどの各部位の名称について調査した〔論文⑯〕。

なお、服飾文化は 107 項目、食文化は 293 項目、住文化は 208 項目を収集し、辞典に収録した。

④ 牧畜民の宗教文化

牧畜民の宗教文化、特に民間信仰の面では別所が中心となって調査を行った〔論文⑨⑬〕。放生（ツェタル）に関する研究は研究協力者の津曲とナムタルジャが行った。また、牧畜民の結婚式については海老原が実地調査と文献調査にもとづく報告をまとめた〔論文⑧〕。通過儀礼である幼児の髪切り式については別所が調査報告をまとめた〔論文⑪〕。その他、山神信仰の儀礼にかかわる日常的なものは映像作品に記録した〔その他②〕。

なお、宗教文化については 489 項目を収集し、辞典に収録した。

(3) 青海チベットの牧畜社会で始まっているイノベーションに関する調査研究

上述の調査を行う過程で、当初は予定していなかった様々な出会いがあった。それが都市部に移住した元牧畜民が起こしているローカルなイノベーションである。現在もまだ牧畜に従事している牧畜民と、都市に移住した元牧畜民の両方を視野に入れ、それぞれの生活の質（Quality of Life）を上げることを目的として、自主的に行われている活動である。

概況については別所がまとめ、特に燃料糞の新しい加工方法の技術革新を目指す起業家について報告した〔論文⑦〕。また、都市部で暮らす元牧畜民のバター加工を支えるための技術革新については星が調査報告をまとめた〔論文③〕。また、エコツーリズムの新しい動きについては海老原が報告した〔論文⑤〕。

これらについては国際チベット学会および日本チベット学会でも発表し、大きな反響があった〔発表④⑤⑥〕。

(4) 調査項目リストと調査シート

上記の調査を遂行するために初年度に、分担して作成した調査項目リストと、実際に調査で用いる調査シートも重要な成果の一つである。地形・天候、家畜の名称、乳加工、畜産物生産、糞の名称と加工、服飾文化、住文化、宗教文化などについて調査項目を事前に準備し、現地調査に赴いた。それらの記録は調査者自身が自らのフィールドノートに記録するのみならず、統一した調査シートに記録を集積するようにした。

調査前に作成したリストは、十分に活用することができたが、調査を経た結果、現地の事情に合わせて項目の増減が必要であることが明らかとなった。今後同様の調査を別の地域で展開するにあたっては、本研究の結果を反映させた、新たなリストを作成することが今後の課題である。

(5) 共同編集データベースの構築

代表者と分担者、研究協力者は共同で現地

調査を行い、年に 3 回以上の研究会を行いながら研究を進めてきたが、それぞれの活動拠点が離れているため、遠隔地でも共同研究や辞典の執筆を進めることができるよう、代表者の星が中心となって共同編集データベースを構築し、以下の①から⑥の作業に活用した。

①調査シートの集積：4 回の現地調査で集積した調査シートは 2,000 枚を超える。これらをいつでも参照できるよう、ID をつけてデータベースに格納し、その記述を電子テキスト化した。この記述を後の辞典の母体とした。
②調査で撮影した写真の集積：撮影した 3 万枚近くの写真は、写真専用のデータベースを構築し、各写真にタグ付けができるようにし、さらに検索機能もつけた。
③辞典項目の執筆と分類・タグ付け：すべての辞典項目は山口が牧畜文化の全体像を捉えるべく考案した 28 の大分類に振り分けた。さらにより細かく項目をグループ化するために、星と海老原が中心となって 400 種類のタグを付与した。調査シートから転記したデータを辞典項目の記述として整えていくにあたっては、星が執筆を担当した。執筆はすべてデータベース上で進め、記述内容の検証においては、28 の分類を活用して分担者、研究協力者が分担してフィードバックを行った。
④写真の選定と解説の執筆：本研究では、青海チベットの牧畜文化を十分に伝えるため、写真を活用することを柱としていた。辞典項目を説明するに足る写真を写真専用データベースから選定し、共同編集データベースとの紐づけを進めた。これらの写真と合わせて必要な解説の執筆も行った。
⑤各言語への翻訳：辞典はチベット語・日本語・英語・中国語の 4 言語対照とすることを当初から目標としており、これを実現するために共同編集データベースに翻訳のフィールドを設置し、日本語訳が確定した後に、英語訳を海老原が、中国語訳は研究協力者のナムタルジャと岩田が担当し、同時進行で翻訳を進めた。
⑥音声データの登録と音韻表記の記述：辞典項目が確定した段階で、現地出身のナムタルジャの発音を星と海老原が録音し、すべての音声データを辞典に登録した後、星が音韻分析を行い、全項目に音韻表記を付した。

(6) 映像作品『チベット牧畜民の一日』
本研究では、牧畜文化を余すことなく記録するために、写真・図版・音声・動画などをふんだんに活用したマルチメディア辞典を編纂するという目標を掲げていた。このうち動画については情報量が多く、伝達力が極めて高いことから、とりわけ現地で本研究の成果が活用される際に極めて重要になると考え、現地の映像作家のカシャムジャ氏とともに共同制作を行った。
撮影は 2015 年 8 月に行った。牧畜民の一日の暮らしを理解できるよう、18 の場面に分けて撮影し、『チベット牧畜民の一日』(2017 年, 100 分, 日本語・英語字幕付き）の映像作品としてまとめた。
当初辞典に添付する DVD に収録することを意図していたが、調査協力者との協議により、DVD の流通に伴う動画のネット流出のリスクがあり、それにより調査協力者が受ける被害の可能性について考慮した結果、辞典の付録としての DVD 頒布は取りやめた。
頒布しない代わりに、一般向け、あるいは学術的な場での解説付き上映活動を進めることとし、2016 年度には 3 回、2017 年度には 7 回の解説付き上映会を実施し、好評を博した。

(7) 牧畜文化のイラスト描き起こし
辞典に動画を収録できなくなったため、イラストによる表現に力点を置くことにした。漫画家の蔵西氏の協力を得て、写真や動画などの資料に基づいたイラスト描き起こしを進めた。動画に頼らずとも、イラストによって作業プロセスを提示することができた。このことは、外国人の理解を助けるのみならず、都市部で育ったチベット人の若い世代に文化を伝えるためにも有効であるとして、現地では本研究で制作したイラストを幼児教育に活用したいという打診も受けている。

(8) 企画展と国際シンポジウムの実施
2017 年 2 月から 3 月にかけて東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所において「チベット牧畜民の仕事展」を実施し、25 枚の解説パネルと現地調査で収集した牧畜民の日用品や生産品を展示した〔その他④〕。好評につき、同年中に 3 箇所で巡回展を実施することとなった〔その他③〕。期間中は『チベット牧畜民の一日』を常時上映し、500 人以上の来場者を集めた。
また、2017 年 2 月には青海師範大学のジャブ氏ら 3 名を招へいし、本研究の代表者、分担者、研究協力者が全員集合する形で国際シンポジウム「牧畜民の「今」を記録する」を 2 日間にわたって開催し、日本側、チベット側が様々なテーマで発表を行い、研究者、一般参加者を含む多くの来場者を集めた。
2018 年 3 月には公開ワークショップ「『チベット牧畜文化辞典』の未来を語る」を開催し、本研究の 3 年間の歩みを振り返るとともに、今後の課題について議論を行った。

(9) 図書の刊行
『SERNYA』誌において、3 号にわたり牧畜民の言語・文化の特集を組み、多数の論考を掲載した〔図書①〕。また、本研究で得られた知見は牧畜民出身の作家による文学作品の翻訳にも存分に活かすことができた〔図書②〕。

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計　36　件）
① 小川龍之介， 平田昌弘， Nantaijia (2018)「屠畜・肉分類と肉利用から観る

アムド系チベット遊牧民の価値体系：青海省東部の遊牧世帯における家畜の屠殺・解体の事例を通じて」『北海道民族学』14, 17-31.（査読有）

② 星泉（2018)「チベット牧畜語彙の収集と辞典編纂」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』5, 188-195.

③ 星泉（2018)「木製電動攪乳機の開発：元牧畜民のローカル・イノベーション」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』5, 139-146.

④ 海老原志穂（2018)「アムド・チベット語におけるヤクの呼び分け：青海省ツェコ県の事例を中心に」池田巧・岩尾一史（編）『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』京都大学人文科学研究所.（査読有）

⑤ 海老原志穂（2018)「持続可能なチベットコミュニティを目指して：若きチベット人活動家の挑戦」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』5, 147-154.

⑥ 別所裕介（2018)「混交を内側から切り分ける：チベット高原東縁部の多民族村における宗教実践をめぐって」『駒澤・文化』36, 27-55.

⑦ 別所裕介（2018)「牧畜×ベンチャー×イノベーション：現代チベットにおける牧畜の衰退と新たな挑戦」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』5, 130-138.

⑧ 海老原志穂（2017)「アムドの結婚式：形式とその簡略化」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』4, 17-24.

⑨ 別所裕介（2017)「空間を刷新する儀礼「ドッカ・ペンバ」：牧畜社会の厄払いと年越し行事」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』4, 8-16.

⑩ 別所裕介（2017)「手縫いでないと作れない最高級の民族衣装「ツァル」：牧畜社会の毛皮加工とその技術」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』4, 25-28.

⑪ 別所裕介（2017)「牧畜社会の通過儀礼：幼児の髪切り式を事例として」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』4: 29-32.

⑫ 山口哲由，ナムタルジャ（2017)「アムドの牧畜生活における自然と放牧地をめぐる語彙」『SERNYA』4, 33-35.

⑬ 別所裕介（2017)「聖地を切り売りする人々：現代チベットの経済開発と民衆的信仰空間の特性」『宗教研究』第390号（91巻2輯），201-228.（査読有）

⑭ Hirata, Masahiro, Nantaijia, Ryunosuke Ogawa, Shiho Ebihara, Yusuke Bessho and Izumi Hoshi.（2017）"Milk processing system of Amdo Tibetan pastoralists and its transition in Qinghai Province, China", *Journal of Arid Land Studies* 26(4), 187-196.（査読有）
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jals/26/4/26_187/_pdf

⑮ 星泉（2016)「糞利用の達人」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』3, 25-28.

⑯ 星泉（2016)「火を囲む暮らし：かまどからストーブへ」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』3, 29-32.

⑰ 海老原志穂（2016)「家畜の毛にささえられた牧畜民の暮らし」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』3, 19-21.

⑱ 海老原志穂（2016)「牧畜民の「家」：テント」星泉・海老原志穂他（編）『SERNYA』3, 22-24.

⑲ 平田昌弘，ナムタルジャ，小川龍之介，海老原志穂，津曲真一，別所裕介，星泉（2015)「中国青海省のアムド系チベット牧畜民の乳加工体系：青海省東部の定住化遊牧世帯と農牧複合世帯の事例から」『Milk Science』64(1), 7-13.（査読有）
https://www.jstage.jst.go.jp/article/milk/64/1/64_7/_article/-char/ja/

〔学会発表〕（計 91 件）

① Bessho, Yusuke "Selling the Holy Place by the Piece: The 2016 Monkey Year Great Pilgrimage to Drakar Dreldzong and its Pervading Frontier Market Economy", Amdo Research Network 2nd International Workshop, 2017, Faculty of Arts, Charles University in Prague.

② Ebihara, Shiho "The Richness of Tibetan Pastoral Vocabulary and its Loss", The 14th International Seminar for Tibetan Studies, 2016, The University of Bergen

③ Hirata, Masahiro "Flexibility of milk processing in Amdo Tibetan pastoralist", The 14th International Seminar for Tibetan Studies, 2016, The University of Bergen.
④ Bessho, Yusuke "Introduction for PANEL#9: Decline and Local Innovation in the Pastoral Society of Amdo Tibet", The 14th International Seminar for Tibetan Studies, 2016, The University of Bergen.
⑤ Bessho, Yusuke "Reformation of *tsha ru*: Traditional Tibetan Clothing and its Innovation in Contemporary Amdo", The 14th International Seminar for Tibetan Studies, 2016, The University of Bergen.
⑥ Hoshi, Izumi "Local Innovations in Dairy Processing Based on the Rediscovery of Traditional Values", The 14th International Seminar for Tibetan Studies, 2016, The University of Bergen.
⑦ Ebihara, Shiho "Milk and Non-milk Cultures, from the View Point of Geolinguistics", The 3rd International Conference of Asian Geolinguistics, 2016, Royal University of Phnom Penh.
⑧ Ebihara, Shiho "How Tibetan People Cognize Yaks: A Study on Lexicons for cognizing Yaks in Amdo Tibet", The 4th International Seminar of Young Tibetologists, 2015, University of Leipzig.
⑨ Bessho, Yusuke "From 'Ethnic Culture' to 'Ecological Culture': New-reformed concept of 'Primitive Religion' in Contemporary Tibet", The 4th International Seminar of Young Tibetologists, 2015, University of Leipzig.

〔図書〕(計 6 件)
① 星泉・海老原志穂他(編)(2016-2018)『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA』vols. 3-5, AA 研. http://tibetanliterature.blogspot.com/p/sernya.html
② ツェラン・トンドゥプ(著)海老原志穂・星泉他(編訳)(2017)『闘うチベット文学 黒狐の谷』, 勉誠出版, 412 頁.

〔その他:ウェブサイト〕
① 星泉, 別所裕介, 海老原志穂, 平田昌弘, ナムタルジャ他(編)(2018)『チベット牧畜文化辞典(パイロット版)』 http://nomadic.aa-ken.jp/ (PDF 版、オンライン版、iOS アプリ版)

〔その他:映像作品・企画展〕
② 星泉, 別所裕介, 海老原志穂, 平田昌弘, ナムタルジャ他(製作), カシャムジャ(撮影・編集)(2017)『チベット牧畜民の一日』(100 分, 日本語字幕版・英語字幕版)
③ ヤクとミルクと女たち展(2017) 開催場所:キチム(吉祥寺, 5 月),タシデレ(曙橋, 6 月),第 3 回キキソソ チベットまつり(松本, 10 月)
④ チベット牧畜民の仕事展(2017) 開催場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2-3 月) http://tibetanpastoralists.blogspot.com

〔その他:公開講演会〕
⑤ 星泉, 別所裕介, 海老原志穂「チベットの文化に触れてみる」, 2018 年 1 月 27 日, 鶴見大学.
⑥ 星泉「チベット牧畜民の女の仕事:乳と糞のある暮らし」連続講座「暮らしの空間と女性」, 2016 年 3 月 22 日, 府中市生涯学習センター.

〔その他:報道関連〕
⑦ 読売新聞 朝刊 30 面(地域/多摩) 2017 年 2 月 17 日「チベット牧畜文化を体感」

６. 研究組織
(1)研究代表者
星 泉(HOSHI, Izumi)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号:80292994

(2)研究分担者
平田 昌弘(HIRATA, Masahiro)
帯広畜産大学・畜産学部・教授
研究者番号:30396337

海老原 志穂(EBIHARA, Shiho)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・ジュニア・フェロー
研究者番号:30511266

別所 裕介(BESSHO, Yusuke)
駒澤大学・総合教育研究部・准教授
研究者番号:40585650

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者
ナムタルジャ/南太加(Nantaijia)
山口 哲由(YAMAGUCHI, Takayoshi)
津曲 真一(TSUMAGARI, Shinichi)
小川 龍之介(OGAWA, Ryunosuke)
岩田 啓介(IWATA, Keisuke)